

## 2014年度受託研究概要報告

# 篠山市古民家再生・活用プロジェクト

## 研究メンバー

山之内誠	デザイン学部環境・建築デザイン学科准教授
花田佳明	デザイン学部環境・建築デザイン学科教授
川北健雄	デザイン学部環境・建築デザイン学科教授
不破正仁	デザイン学部環境・建築デザイン学科助手

## 委託者

篠山市商工会

## 研究概要

本研究は、篠山に実在する古民家を、現代住宅としての性能を確保しつつ、地域性・気候風土に適合した魅力あふれる住宅として再生させることを第一の目的としている。単に一古民家の再生にとどまらず、①古民家を地域の文化遺産として、再生しながら継承していくことへの理解と意識を高め、同種の仕事の機会を開拓していくこと、②地域の建築業者に古民家改修のノウハウを蓄積し、継続的に地域の建築業界を支えるビジネスモデルを確立していくこと、③若い世代の参加を促し、建築の仕事の魅力を体験してもらい、未来の建築業の担い手を育成すること、なども視野に入れている。

具体的には、以下の4点の取り組みを実施した。

(1) 中井邸改修案学生コンペ：学部4年生の「環境デザインプロジェクト」の授業を活用し、履修者27名によるコンペ形式で中井邸の改修案を提案。(2) 古民家カフェ：中井邸改修工事に先立ち、ある程度来客の応接に堪えるように主屋および付属屋の清掃を実施したうえで、近隣住民へ改修プロジェクトの概要を告知する機会として、カフェイベントを実施。(3) 小学生職業体験会：地域の将来を担う子どもたちを対象に、中井邸改修工事現場の見学会に加え、壁塗りや鉋かけ等の建



築業の作業体験の機会を提供。(4) 実施案の策定：学生コンペで提案した改修案を原案として、本研究メンバーと施主・中井氏との間で改修工事と並行して実施案の検討会議を重ね、最終案をまとめた。

## 研究成果

2014年度の研究活動を通じて、以下の3点の成果が得られた。

(1) 地域活性化の成果：通常の古民家改修工事とは異なり、施主を含む地元工務店グループと大学が協力し、古民家再生をイベント化することにより、再生のプロセスを公開し、活動内容と目的を地域住民と共有することができた。改修工事に先立ち行った古民家カフェ、中井邸における改修案の公開プレゼンテーション、篠山市民センターでの作品展示会の実施、さらに本プロジェクトの紹介チラシの新聞折り込み等、継続的に今回の活動内容を地域社会に向けて情報発信することにより、古民家が地域にとって重要な資産であり、地域活性化に欠かせないことへの認識を高めることができた。

(2) 古民家再生手法開発の成果：扱った古民家は1軒にすぎないが、コンペ形式の採用により、数多くのアイデアを引き出すことができた。そして実施段階においては、複数の案の優れた部分を取り入れて、実現可能なひとつの具体案へとまとめあげていくことで、より魅力的な再生案へとデザインを昇華させることができた。

また、多様な再生案の公開・展示は、地域の古民家再生への需要を呼び起こすものであると同時に、地元工務店へのアイデアの蓄積にもつながる成果と考えられる。

(3) 次世代の育成面の成果：本プロジェクトを通じて、本学学生に対して、今後増えるであろうリノベーションの仕事を体験的に学ぶ機会を提供した。また、改修現場見学・職業体験会を通して、地域の小学生に建築の仕事の種類や楽しさを知る機会を提供した。これらを通して、今後の建築業を担う若い世代の育成に貢献することができたと考えている。

